様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６１４０１０

研究課題名（和文）沖縄における持続的なワイルドライフ・ツーリズムの構築に関する実践的研究

研究課題名（英文）Practical study on shaping sustainable wildlife tourism in Okinawa

研究代表者
大島　順子（OSHIMA, JUNKO）

琉球大学・観光産業科学部・准教授

研究者番号：４０４２３７３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,200,000円、（間接経費）　　1,260,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本において未開拓の観光形態である野外での希少な生き物との出会いや野生生物の観察を目的とするワイルドライフ・ツーリズムの構築を目指し、本土と異なる自然環境にあるとりわけ生物の多様性が高い沖縄島やんばるのバードウォッチングツアーに着目して実践的な条件整備に取り組んだ。観光資源としての野生生物の適切な保護と管理体制を整備するための要素を分析するとともに、希少な鳥類に負荷を与えないための観察指針（ガイドライン）を盛り込んだガイドブックを学習会等の作業を通して地域住民と作成することができた。今後も、ガイドブックを活用し、ツアーモデルの商品化に向けた学習支援の継続を進めていく。

研究成果の概要（英文）：Wildlife tourism in Japan is not yet well established. This study contributes to shaping sustainable wildlife tourism in Japan, particularly for a model of community-based practice as a case study in Yanbaru. Yanbaru is currently well-known domestically and is a popular ecotourism destination because of its pristine subtropical rainforest environment unknown on the Japanese mainland. As result of this study a guidebook to understand that area was produced by collaborative work with host community. It includes birdwatching guideline for watching Okinawa rail (Gallirallus okinawae, EN) properly. Effective host participation in planning and management can build support for wildlife tourism development and provides an additional source of knowledge and labour based on community leaning process.

研究分野：総合人文社会

科研費の分科・細目：観光学

キーワード：野生生物の観察指針　自然資源の保全と活用　ﾜｲﾙﾄﾞﾗｲﾌ・ﾂｰﾘｽﾞﾑの構築　環境教育　バードウォッチング　沖縄島やんばる　地域研究　住民参加型実践研究

１．研究開始当初の背景

野外での希少な生き物との出会いや野生生物の観察を目的とするワイルドライフ・ツーリズムは、日本においては未開拓の観光形態である。本土と異なる自然環境にある沖縄島の中でもとりわけ生物の多様性が高く、特に鳥類において日本の固有種 16 種のうち 5 種が生息する北部（やんばる）地域で絶滅危惧種を含むバードウォッチング（野鳥観察）を主とするワイルドライフ・ツーリズムを構築することは、適切な資源管理に基づいた自然環境保護及び観光資源の保全と活用の観点から、観光立国の実現のために不可欠な要素を含む持続可能な観光の創造に繋がるものである。

本研究の主な特色および独創的な点は、以下の 3 点に整理できる。

1）先進事例の調査研究に基づいたワイルドライフ・ツーリズムの枠組みが明確になり、日本で初めて公開される。

2）国内で最も生物多様性が高く、その保全と利活用の取組みが注視されている沖縄島やんばるで、ワイルドライフ・ツーリズムの構築に向けた実践が可能となり、国内の他地域への波及効果が期待できる。

3）観光立県・沖縄の自然観光資源の適切な保全と活用という持続可能な観光に資するモデルが創出される。

２．研究の目的

本研究では、沖縄島やんばるのバードウォッチングツアーに着目し、希少な鳥類に負荷を与えないための観察指針（ガイドライン）の策定、それを基にしたツアープログラムの開発及び人材育成、商品化の整備という具体的なモデルを地域との連携のもと作成し、現場で活用する体制を整え実践することを目的とする。

３．研究の方法

研究は、以下の方法をとった。

(1) 文献および収集資料の多面的且つ構造的分析

(2) 国内外のバードウォッチングツアーの参加による既存のガイドラインの有効性の分析とツアー企画および実施者へのインタビュー調査

(3) 沖縄島やんばるにおけるワイルドライフ・ツーリズムとしてのバードウォッチングツアーモデルの創出に向けたアクション・リサーチ（地域住民との学習を通したガイドブックの作成とガイドラインの策定）

【補足】

沖縄島やんばるの持続的なバードウォッチングツアーモデルの創出と実践に向けた具体的な取り組みとして、対象地域で地域住民を対象とした学習会を研究の第二年度前半に数回実施し、その後も継続開催する予定であったが、相次ぐ台風の襲来で現地の生活基盤が不安定となり、強引な開催は不適切と判断し、地域住民参加型の学習会開催の計画見直しを行った。

また、地域住民との連携による研究は、研究を企画する側の一方的な思いで実施することは当事者にとって迷惑となるばかりか研究の目的にも反することであり、十分に配慮して取り組んでいくこととした。

４．研究成果

ワイルドライフ・ツーリズムの構築は、昨今の自然志向の国民の増加とともに、固有種や希少な野生生物の観察を主とした観光メニューの創出に応えるものであり、同時に観光資源としての野生生物の適切な保護と管理体制の構築の必要性を明確にするものである。

ワイルドライフ・ツーリズムの構築に必須となる要素は、以下のように構造化された。

【ワイルドライフ・ツーリズム推進に必要な要素】

(1)<u>ワイルドライフ・ツーリズムの基本的理解</u>

・定義
・一般的なツーリズムとの関係
・野生生物の観察という活動の範囲
・マーケットの理解、利害関係者との連携

(2) <u>ワイルドライフ・ツーリズムによる経済的、社会的及び自然環境保護への効果の理解</u>

・野生生物観察の経済的価値
・貧困克服や地域活性化に対する貢献
・自然環境保護のための財源の増加

(3) <u>ワイルドライフ・ツーリズムによる野生生物へのかく乱を理解し、最小限に抑えるための体制の確立</u>

・野生生物への負荷や危険性
・訪問者管理
・起こりうる環境影響の管理方法
・モニタリング
・教育やインタープリテーションの実施

(4) <u>野生生物への生態学的な負荷を抑えるための研究体制の整備</u>

・持続可能なワイルドライフ・ツーリズムを展開していくための計画

【日本における野生生物の観察と観光の関係】

野生生物の観察という活動は、日本ではツーリズムという観光形態ではなく、「自然観察会」や「探鳥会」といったレクリエーションや興味関心のレベルによる形で、自然公園をはじめとした自然系組織（自然観察の森、サンクチュアリ、森林公園、野鳥公園等）を会場として、その多くが実施されてきた背景

があり、現在もそれが主流であることが明らかとなった。

国内外のバードウォッチングツアーの参加による既存のガイドラインの有効性の分析とツアー企画および実施者へのインタビュー調査を踏まえ、最終的に沖縄島やんばるにおけるワイルドライフ・ツーリズムとしてのバードウォッチングツアーモデルの創出は、地域住民との連携による野鳥観察のガイドラインを盛り込んだガイドブックの作成に繋げた。

【ガイドブックの概要と構成】

(1) <u>ガイドブック作成の対象地域と概要</u>

沖縄島やんばるにおけるワイルドライフ・ツーリズムとしてのバードウォッチングツアーモデルとして、近年国指定天然記念物ヤンバルクイナが多く目撃されるようになった国頭村楚洲集落を対象として、ツアーの際に活用するガイドブックの作成づくりを地域住民と進めた。

ガイドブックには、これまでの研究成果を反映させ、楚洲集落の歴史や産業、生活文化を紹介したうえで、ヤンバルクイナの観察指針を盛り込んだ。ヤンバルクイナといった希少種だけに焦点をあてるといった偏った視点からでなく、人の生活圏と野生生物が生息する条件を満たすハビタット（生息場所）の相互関係に関心を持ち、理解が促進されるよう配慮した。

(2) <u>ガイドブック構成</u>　※図 1～7 を参照

1) 地図
2) 集落発生の歴史
3) 産業（林業・農業・漁業・畜産）
4) 生活（共同店・住まい・学校・風力発電）
5) 自然（海：伊江川）
6) 伝統行事（豊年祭・エイサー）
7) 自然（生物：ヤンバルクイナの生態・生息地の理解）
8) ヤンバルクイナの観察指針

【ガイドブックの活用と今後の方向性】

本研究では、地域事情を配慮し、ツアーの際に活用するガイドブックの作成を通して地域住民と個別に連絡を取りながら作業を進めていった。

今後のガイドブックの活用方法と今後の方向性は以下のように整理できる。

(1) 地域住民参加型の学習会を開催し、そこでのテキスト
(2) ガイドブックをたたき台とし、地域住民が残しておきたい／さらに調べたい項目の抽出とそれを実現させるフィールドワークの実施
(3) ツアー実施の構成員となるツアー商品化に向けた整備

※ガイドブックは、集落の全世帯に配布され、共同店においても入手可能とした。

なお、世界自然遺産登録を目指すこの地域においては、継続的な学習支援をしていくこととする。

図 1　親しみやすいイラストで飾った表紙

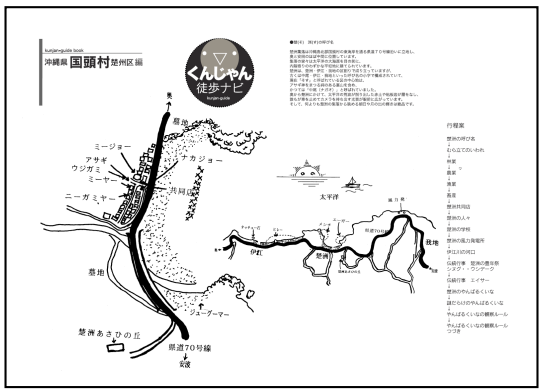

図 2　集落全体を表す地図を挿入した目次

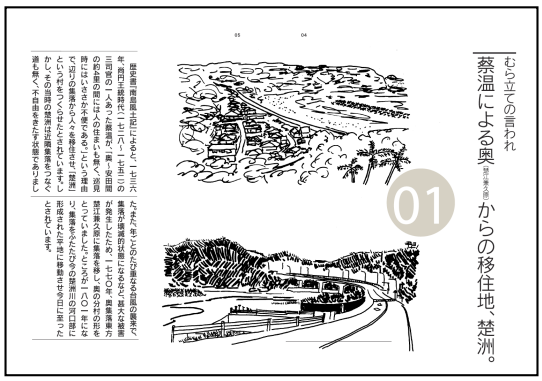

図 3 ヤンバルクイナが多く生息するようになった集落の歴史と産業、生活文化を紹介

図 4 興味をひく問いかけでヤンバルクイナをわかりやすく説明

図 5 ヤンバルクイナの特徴と生き物としての未解明な部分を解説

図 6 観察のガイドラインを観察時の 6 つの約束事（ルール）として提示

図 7 観察時の行動をわかりやすいイラストで提示

5．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）
※執筆および投稿中

〔学会発表〕（計３件）
1. OSHIMA, Junko、「Critical point of endemic birds in Okinawa,JAPAN-Challenge of shaping for management of wildlife viewing- 」、 Wildlife Tourism Australia Workshop in Darwin(ｵｰｽﾄﾗﾘｱ NT 州、ﾀﾞｰｳｨﾝ)、2013 年 10 月 2 日発表。

2. 大島順子・久高将和、「日本におけるワイルドライフ・ツーリズムの構築に向けた一考察－英国王立鳥類保護協会(RSPB)の戦略的環境教育事業への取り組み事例から－」、日本環境教育学会第 24 回大会（びわこ成蹊スポーツ大学）、2013 年 7 月 12 日発表。

3. OSHIMA, Junko、「Towards shaping sustainable wildlife tourism in Japan」、Wildlife Tourism Australia’s 3rd National Workshop (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ QLD 州、ｺﾞｰﾙﾄﾞｺｰｽﾄ)、2012 年 5 月 17 日発表。

〔図書〕（計１件）
1. 大島順子（琉球大学編）、「ほんとはわかっていないヤンバルクイナ…？－やんばるの資源を守り活かすには」、『知の源泉：やわらかい南の学と思想・5』、沖縄タイムス社、2013 年。

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
大島順子（OSHIMA, Junko）
琉球大学・観光産業科学部・准教授
研究者番号：40423735

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：